

経営者への活きた言葉

海外進出しても日本は空洞化しない(その2) 中沢 孝夫(福井県立大学特任教授)

1. 国内世論の一部では、工場の海外進出、海外展開を「海外移転」という言葉に置き換えて、空洞化、あるいは国内雇用の喪失、と結びつける向きもあるが、それは事実と異なる。
特に中小企業の場合で言えば、積極的に海外との貿易をおこなったり、あるいは工場進出をする企業ほど、国内の工場が成長しているのが実際である。
2. ここで海外の工場展開の数字をみてみよう。
2001年度の海外での法人数は約12500社(製造業が6500社)であったものが、2009年度には18000社(製造業8400社)を超えている。またこの数字の約50%が中小企業であるといつてよいのだ。ではこの間に空洞化が進んだのだろうか。製造業の出荷額は、ピークだった1991年には340兆円(従業者数1100万人)だった。それが2008年度330兆円(従業者数836万人)である。従業者数の減少と出荷額をみると、一人当たりの生産性が上昇しているということになる。これは空洞化というよりも、体質改善と評価すべきではないだろうか。
3. また、忘れてならないのは、「現地調達」というとき、「現地企業」の多くは日本から進出している企業だという事実である。

(参考:「文藝春秋」2011年11月特別号)

幹部への活きた言葉

生涯修業が自己の使命

1. この世に自己の意志で生まれてくる人は一人もいない。寿命もまた人の意志の範疇^{ハンテウ}をはるかに超えている。しかも自分と同じ人間は過去にもいなかったし、これからも生まれてこないということである。
人は誰しもの悠久^{ユウキウ}の宇宙の中でただ一人、一回限りの命を生きている。まさに奇跡の命であり、人生である。
2. この事実に感応した先覚者たちは、人は皆一個の天真^{テンシン}を宿してこの世に生まれてくる、と考えるようになった。その天真を發揮し、成熟させ、完成させていくことこそ、天が人間という生命体に託した課題ではないか。
またそのことによって、人は他を照らす人生を生きることができるようになる。それは一生を懸けて果たしていく道である。その思いから先覚者たちは生涯、成長し続けることを自己の命題とした。
生涯修業を自己の使命として生きた。

(参考:「致知」:2012年1月号)